

立澤剛 たしざわ たけし ドイツ文學者。明治二十一年九月二十一日福岡縣三池郡銀水村生れ、昭和二十一年七月十二日歿（八六―一九四）。キリスト教信者の家、に育つ。明治四十五年東京帝國大學文科大學獨文科卒。第ニ高等學校教授を経て、大正十一年第一高等學校教授。十二年ドイツ留學、歸朝後文藝部長。

譯著、い、フリードリヒ・グンドルフ著『シユライエルマヘルの浪漫主義』（鱧正太郎共譯、昭和五年十一月二十日岩波書店）、『チエツアラツストラ』（昭和十一年七月十日岩波書店→大思想文庫）、復刊。二十二年八月十五日岩波書店）があり、歿後出版せられた『ヨリ澤剛隨筆集』（昭和二十二年十月十日京城・立沢剛隨筆集刊行会）の序文に、
「學問的天分と教育的指導力とをいいて、まれにみる人材であつた」（天野貞祐）とある。

